

令和6年度

教職課程

自己点検・評価報告書

名古屋女子大学

家政学部

健康科学部

令和7年3月

## 名古屋女子大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

- ・家政学部 （生活環境学科（中・高）家庭）
- ・健康科学部 （健康栄養学科 栄養）

### 学部における全体評価

大正4（1915）年に創立された名古屋女学校を祖とする名古屋女子大学は、建学の精神であり学園の信条である「親切」を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏ったよき家庭人であり力強き職能人としての女性を育成することを教育目的としている。

その目的を達成するため、家政学部の家庭科教諭免許における教職課程では、情報・ビジネスを基盤とした専門科目等を通して幅広い視野に立った豊かな人間性を育成するとともに、衣領域、食領域、住領域に係る優れた専門性を修得する専門科目によって、実践力と教育への深い見識を育む教育課程を編成している。

家政学部の教職課程は、平成12（2000）年に家政学部生活環境学科に設置されて以来、多数の家庭科教員を世に送り出してきた。

また、健康科学部の栄養教諭免許における教職課程では、学士力向上を目標とした教養科目等と食と健康に関する専門知識と技能、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技能を修得する専門科目を設置して体系的な教育課程を実現することで、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成するとともに、将来管理栄養士として活躍できる人材を養成している。

健康科学部の教職課程は、平成27（2015）年に栄養教諭制度が創設されたのを機に、前身である家政学部食物栄養学科に設置されて以来、多数の栄養教諭を世に送り出してきた。

今回、教職課程自己点検・評価を実施したことにより、「Ⅲ.総合評価」にも述べている通り、本学が長年取り組んできた「社会に貢献できる教育者の育成」が一定以上の成果をあげていることが示されたと思われる。自己点検・評価によって明らかになった課題については、学部内外の教員と情報を共有して問題意識を高め、FD・SD等を通して改善を図る。自己点検・評価を継続し、教職課程の質向上に組織的に取り組む体制を整えていきたい。

名古屋女子大学

家政学部長 小町谷 寿子

健康科学部長 久保 金弥

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	9
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	12
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	15

## I 教職課程の現況及び特色

## 1 教職課程の現況

- (1) 大学名：名古屋女子大学
- (2) 所在地：愛知県名古屋市瑞穂区汐路町 3-40
- (3) 教職課程の履修者数及び教員数

## ① 教職課程の履修者数 令和6年度（令和6年5月1日現在）

学部	学科名	教科	免許種	教職課程履修者数				合計
				1年	2年	3年	4年	
家政学部	生活環境学科	家庭	中学校1種	18	12	8	13	51
			高等学校1種	18	12	8	12	50
健康科学部	健康栄養学科		栄養教諭1種	16	7	3	6	32

## ② 教職課程に係る教員数

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	4	1	1		
備考：教職専任教員数					

## (4) 卒業者の現況

## 教職課程 令和5年度卒業生（令和6年5月1日現在）

教科	免許種	卒業 者数	就 職 先 状 況											
			認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
			正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
家庭	中学校1種	12							1	1				
	高等学校1種	14							1	1				
	栄養教諭1種	6						2						

## 2 特色

大正4（1915）年に名古屋女学校が創設され、昭和39（1964）年に名古屋女子大学家政学部家政学科が設置された。その後、学部新設・改組がなされ、教職課程は平成12

（2000）年設置の家政学部生活環境学科と平成31（2019）年設置の健康科学部健康栄養学科に設けられた。

### （1）家政学部

家政学部の生活環境学科において「中学校教諭一種免許状 家庭」と「高等学校教諭一種免許状 家庭」の課程を設置している。生活環境学科で学ぶ衣領域・食領域・住領域・ビジネス、情報の専門知識を基盤に、衣領域、食領域、住領域に強い家庭科教員の育成に取り組んでいる。

### （2）健康科学部

健康科学部の健康栄養学科では、「栄養教諭一種免許状」の課程を設置している。栄養教諭の役割、食育の意義、食に関する教育の理論と方法について学ぶとともに、子どもの食を取り巻く様々な課題の解決に取り組むことができる能力を伸ばしている。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

##### 〔現状〕

生活環境学科では、求める学生像を「生活環境全般に関わる専門知識や技術（技能）を身に付け、家庭科教員を目指す人」としている。健康栄養学科では、「4年間の学修成果を実践し、管理栄養士や栄養教諭など専門を生かした職業を目指す人」としている（資料 1-1-1）。生活環境学科では 2 つ、健康栄養学科では 1 つの免許について教職課程認定を受けている。教職課程科目については、家政学部・児童教育学部に在籍する教職科目担当教員と非常勤教員により授業を行っている。各学部・学科間で、教育課程教育の目的・目標を共有するために次のような活動をしている。

- ・教職科目カリキュラムについて学部、学科間での連絡・調整を、教職科目担当教員で行っている。

- ・年度ごとの教育実習の計画及び進捗状況の確認を教職課程科目担当で共通理解を図りながら進めている。

- ・教職課程関連図書の継続的購入と配架を教職課程科目担当者と教育実習担当事務職員と協議しながら実施し、教職環境の整備に努めている。

- ・愛知県教育実習（小・中学校）私大協議会及び東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡協議会（東海北陸私教協）への参加により、各自治体の教育委員会等からの教員採用試験情報や教育実習への取り組み方や内容について情報共有を図り、学生へ様々な情報を還元している。

- ・地域社会の行事等の連携について教職への関わりを考慮して推進している。

上記の活動を通して教職課程履修学生へ様々な情報提供を行っている。

教職科目の授業内容については、シラバスに明記されているが、学生には「履修カルテ」を LMS 上で配布し記入するよう促している。

#### 〔優れた取組〕

教職課程科目教員と事務職員のみならず、教職課程履修生に関する情報共有を学科会議等で学科教員全体へ行っている。教育実習訪問も学科教員全員を実習校へ割り振り、参観・指導を行っている。

#### 〔改善の方向性・課題〕

「求める学生像」を「生活環境全般に関わる専門知識や技術(技能)を身に付け、家庭科教員を目指す人(生活環境学科)」(資料 1-1-1)、「4年間の学修成果を実践し、管理栄養士や栄養教諭など専門を生かした職業を目指す人(健康栄養学科)」としているが、「教員養成の理念と目的」等が言及されていない(資料 1-1-2)。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1 : 2025 大学案内 p. 49
- ・資料 1-1-2 : 2025 大学案内 p. 17

### 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

#### 〔現状〕

家庭科教員における「教育の基礎的理解に関する科目等」の教職専任教員は 2 名、栄養教諭の「教育の基礎的理解に関する科目等」の教職専任教員は 2 名である。いずれも担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況等を満たしている。なお、講義科目によっては、他学部の教員や非常勤の教員が授業を行っている。また、カリキュラムマップで授業の系統性を確認し各教員が連携して授業を行っている(資料 1-2-1)。

ICT の環境として、すべての講義室にプロジェクターとスクリーンを設置し、ネットワークに接続可能なコンピュータを活用した授業ができる環境を整備している。各教室には無線 LAN を使用できる環境があり、ノート PC やタブレット端末を

持ち込んで情報収集を行うことができる。教室に設置してあるプロジェクターを利用し、プレゼンテーションも実演可能となっている。

FD に関する取り組みについては、学生による授業評価アンケートを実施しており、アンケート結果を基に授業の改善・向上を目指している（資料 1-2-2）。

教職課程に関する情報公開は、卒業生の教員採用状況等を大学案内や本学ホームページで公表している（資料 1-2-3）。

#### 〔優れた取組〕

家政学部及び健康科学部の講義室において、ネットワークに接続可能なコンピュータを活用した授業ができる環境を整備しており、それらの教室については無線 LAN を使用できるようになっている。また、授業方法の改善のために、学科の FD 研修会を実施している。さらに、授業評価アンケートの結果については、授業担当教員が結果のリフレクションを行い学内で公開している。

#### 〔改善の方向性・課題〕

授業評価アンケートは、学期に 2 回行われているが、教職科目に特化した評価項目は設定されていない。今後、検討する余地がある。

#### ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 資料 1-2-1：履修の手引き（2024 年度）
- ・ 資料 1-2-2：授業評価アンケート（2023 年度）
- ・ 資料 1-2-3：「教員養成の状況」本学ホームページ

## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状〕

大学案内には、生活環境学科で「中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）」を、健康栄養学科で「栄養教諭一種免許状」を取得できることを明記している。

次年度の学生募集のために、オープンキャンパスを6月から開催し、多くの高校生に足を運んでもらっている。個別相談窓口を設けており、生徒からの教員免許に関する質問には、免許取得のための授業科目、教育実習の実際、教員としての適性について、教職科目を担当する教員等から丁寧に説明している（資料2-1-1）。

また、生活環境学科・健康栄養学科ともに、教職を目指す学生には3年生の夏からキャリアガイダンスを実施し、採用試験の対策を行っている。

#### 〔優れた取組〕

生活環境学科では、教育実習を終了した後、教育実習体験文集を作成し後輩へ情報の伝達を行っている。また、報告会も行い、実習の楽しさや苦勞、記録簿や指導案の書き方等を後輩へ伝達している（資料2-1-2）。

健康栄養学科では、教育実習後に、下級生と学科教員が参加して報告会を行っている。また、教育実習体験文、教員採用試験経験談を収載した冊子「教職—教職をめざす学生のために—」を作成、配布し、後進を育成している（資料2-1-3）。

#### 〔改善の方向性・課題〕

生活環境学科の教職課程履修生は全体の学生数の17.8%、健康栄養学科では8.8%であり、少人数教育で学修の効果は上がっている。しかし、今後、教職の魅力を学生にどのように伝え、教職課程履修生を増加させていくかが課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：大学案内（2024年度）
- ・資料2-1-2：教育実習体験文集（2023年度）
- ・資料2-1-3：教職—教職をめざす学生のために—（2024年度）

## 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状〕

生活環境学科の1年次では、教職科目履修登録時に、クラスの指導教員と教職科目担当教員を通して教職に対する自覚と責任、意欲喚起への指導をしている。1年次から4年次まで「教職履修カルテ」を用いて、教職に対する自己の適性を理解し、4年生の「教職実践演習」を履修することにより、教職に対する意欲や自己の適性を理解する指導を行うとともに、教職への理解と責任、意欲喚起や自己の適性について理解を深めることのできる指導をしている（資料2-2-1）。4年次では、「教育実習事前指導」や「教育実習事後指導」において、教職に対する心構えや責任、教育実践への理解について、個別指導も含めながら指導している。さらに、教員採用試験に向けての指導を通して、教職に対する意欲喚起を行っている（資料2-2-2）。

健康栄養学科では、1年次の履修登録時に栄養教諭の職務の意義について説明し、教職に対する自覚と責任を持つよう指導している。生活環境学科と同様に、1年次から4年次まで「教職履修カルテ」を用いて、教職に対する自己の適性を理解し、自己研鑽に努めるよう指導している。3年次から「栄養教諭教育実習指導」により事前指導を行い、4年次の「教育実習」、「教職実践演習（栄養教諭）」を履修することにより、教員としての使命感や責任感、社会性や対人関係能力をも兼ね備えた確かな実践的指導力を育成している（資料2-2-5）。

### 〔優れた取組〕

生活環境学科では、家庭科教員を目指す学生が、教員採用試験対策同好会「ハニーコ」に所属し、教職課程教員や学科教員から筆記試験・論作文・面接等の指導を受け、対策を行っている（資料2-2-3）。また、採用試験合格者が「教職」という合格体験記を作成して後輩へ情報提供をしている（資料2-2-4）。

健康栄養学科では、教員採用における面接官等の経験のある教員が、栄養教諭を

目指す学生に対して論作文、面接等の指導を行い、採用試験に向けた支援を実施している。また、採用試験合格者が「教職 ―教職をめざす学生のために―」という合格体験記を作成して、後輩へ情報提供をしている（資料2-2-6）。

**〔改善の方向性・課題〕**

教員採用試験の受験希望者は少ない。今後、現場で働くことの魅力を教職科目履修生にどのように伝えていくかが課題である。

**<根拠となる資料・データ等>**

- ・資料2-2-1：教職実践演習シラバス（2024年度）
- ・資料2-2-2：教育実習の手引（2024年度）
- ・資料2-2-3：サークル活動冊子内「ハニーコ」（2024年度）
- ・資料2-2-4：「教職」合格体験記（2023年度）
- ・資料2-2-5：教職実践演習（栄養教諭）シラバス（2024年度）
- ・資料2-2-6：教職 ―教職をめざす学生のために―（2024年度）

### 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

#### 基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

##### 〔現状〕

「親切」を建学の精神とし、生活環境学科では、衣食住とビジネス・情報分野でのスペシャリストの育成を目指している。卒業単位を124単位とし、中学校教諭一種免許状（家庭）取得のため教科及び教科の指導法に関する科目28単位以上、教育の基礎的理解に関する科目等31単位以上を設定している。高等学校教諭一種免許状（家庭）取得のためには教科及び教科の指導法に関する科目32単位以上、教育の基礎的理解に関する科目等27単位以上を設定している（資料3-1-1）。

健康栄養学科では、食と健康に関する専門知識と技能とともに、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技能を修得し、医療職とも連携できる管理栄養士の育成を目指している。卒業単位を124単位とし、栄養教諭一種免許状取得のための栄養に係る教育に関する科目を4単位、教育の基礎的理解に関する科目等の必修を含めて28単位以上設定している（資料3-1-2）。

両学科ともに、時間割の配置運用に当たっては、教職課程科目と教職課程以外の科目が適切に配置され、学生が無理なく教職課程を履修することができるようになっている。また、履修の手引きに教職科目のカリキュラムマップとカリキュラムツリーを掲載し、学生の円滑な履修計画を支援している（資料3-1-3）。

##### 〔優れた取組〕

授業内容・方法については、アクティブ・ラーニング等によって工夫をしている。一方向的な講義形式の教育とは異なり、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク等を含む学修者が能動的に学修に取り組めるような教授・学習法の導入を教員に促している。これによって学生は、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力を得られるようになっている。

##### 〔改善の方向性・課題〕

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーに教職課

程が明確に位置づけられていない。

また、ICT 機器の活用は実施されているが、効果的な電子黒板等の有効活用を踏まえたアクティブ・ラーニングについては、今後の課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1：家政学部履修の手引き(2024 年度)
- ・資料 3-1-2：健康科学部履修の手引き(2024 年度)
- ・資料 3-1-3：カリキュラムマップ、カリキュラムツリー(2024 年度)

### 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

#### 〔現状〕

生活環境学科の教職課程における実践的指導力を育成する機会としては、「教育実習」の事前・事後において、教職全体のオリエンテーションと家庭科学習指導案作成とその指導案に基づいた模擬授業を実施して実践的指導力を育成している(資料 3-2-1)。

さらに、「教職実践演習」では、実践的指導力育成を目指し家庭科の授業内容が編成されている。さらに、中学校免許状取得に必須である介護等体験においても、事前・事後の指導を行い体験の充実に努めている。体験の事後には介護等体験報告会の実施や学びの振り返りとしてレポートを課すことにより、教員として求められる資質や自己の課題について省察できるように指導を行っている(資料 3-2-2)。

地域との連携については「総合的な学習の時間の指導法」で名古屋市内の公立中学校へ「エシカル消費」の出前授業を行ったり、愛知県立瑞陵高校の食物科と連携して「食」に関する授業参観をしたりする等、学外においても家庭科領域・栄養分野での知識・技能の向上を図っている。

健康栄養学科では、「栄養教諭教育実習指導」において栄養教諭の教育実習における心構えを確認するとともに、食に関する指導内容について教材研究、模擬授業を行い、実践力を育成している(資料 3-2-4)。さらに、「教職実践演習(栄養教

論)」では、模擬授業の実施や教育実習等の振り返りを行い、教科指導力や生徒指導力の更なる向上を図り、教員としての使命感や責任感、社会性や対人関係能力をも兼ね備えた確かな実践的指導力を構築している（資料3-2-5）。また、管理栄養士臨地実習により身に付けた学校給食の運営に関する知識・技能を、「教育実習」の教科指導力や生徒指導力の向上につなげている。

#### 〔優れた取組〕

生活環境学科では愛知県内の公立小学校との連携等による学外での学修活動の成果を本学ホームページや学報、教育後援会の学科別懇談会等を通じて保護者・地域へ情報発信している。授業科目「家庭科 A・L 指導技術」においては、主体的・対話的で深い学びのための授業デザインについて現役の家庭科教員から指導を受けている（資料3-2-3）。

健康栄養学科では、授業科目「栄養教諭概論」において、栄養教諭経験者の指導のもと、学校給食の献立を作成し自治体の給食センターへ提案した。

#### 〔改善の方向性・課題〕

教育実習の実習校での評価と大学での評価をどのように整合していくか検討する必要がある。また、学校現場でのボランティア等の情報を学生に伝えていく方法等が課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：教育実習の手引き（2024年度）
- ・資料3-2-2：介護等体験の手引き（2024年度）
- ・資料3-2-3：家庭科 A・L 指導技術シラバス（2024年度）
- ・資料3-2-4：栄養教諭教育実習指導シラバス（2024年度）
- ・資料3-2-5：教職実践演習（栄養教諭）シラバス（2024年度）

### Ⅲ 総合評価（全体を通じた自己評価）

家政学部と健康科学部は、創立以来の建学の精神であり、学園の信条である「親切」を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏ったよき家庭人であり力強き職能人としての女性を育成することを目的として掲げている。この教育目的に基づく本学部の教職課程教育の総合評価としては、基準領域1から基準領域3について、基準領域ごとの自己点検・評価に照らし検証した結果、その要件を十分満たしていると判断することができる。以下、項目ごとにその根拠を述べる。

#### 1-1

教職委員会の構成員は、学生支援センター長、センター長補佐、学部長、学科長、教職課程関係教員となっている。教職委員長には持ち回りで学部長が就任し、教職課程の全体を統括している。さらに学生支援センター教学支援部門の職員も構成員として属しており、全学的組織として位置づけられている。

#### 1-2

教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員とが適切な役割分担を図りながら学生指導に当たっている。学部FDを定期的で開催し、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの達成状況の共有、それに基づく課題発見を組織的に進めている。

#### 2-1

家政学部と健康科学部の教職課程で求める学生像については、アドミッションポリシーに明示するとともに、オープンキャンパス・新入生オリエンテーションを通して学生が理解を深められるよう努めている。学生の育成に関しては、カリキュラムポリシーを踏まえて、教職課程の学修成果に関する情報分析には教職履修カルテを活用して学生の適性・資質に応じた教職指導を実施している。

#### 2-2

学生の教職に対する意欲や適性、ニーズの把握に基づいた組織的なキャリア支援

を展開している。平成 26(2014)年に教職関係資料室(生活環境学科)、令和 4(2022)年に教職関係資料室(健康栄養学科)を開設した。ここでは教員として就職するための情報誌をとりそろえ、教員採用試験について情報収集ができ、学生がいつでもそれらの情報に触れることができるようになっている。さらに、生活環境学科では学生主体の課外活動である同好会「ハニーコ」があり、学生は採用試験対策等の教職に就くための様々な活動に取り組み、これを学部の全教員がきめ細かく支援している。

### 3-1

家政学部生活環境学科では、衣食住、ビジネス・情報の専門性をもった人材の育成、健康科学部健康栄養学科では栄養教諭の役割、食育の意義、食に関する教育の理論と方法について学ぶとともに、子どもの食を取り巻く様々な課題の解決に取り組むことができる力の育成を目指している。教職課程カリキュラムは各学科ともコアカリキュラムを踏まえて編成しており、履修の手引きには教職課程のカリキュラムマップとカリキュラムツリーが提示され学生の履修計画の一助となっている。授業においては、「主体的、対話的で深い学び」を視点を、授業でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク等を含む学修者が能動的に学修に取り組めるような教授・学習法の授業を教員は目指している。

### 3-2

学生が取得を希望する教員免許状に応じて実践的指導力を養成する機会を設定し、様々な体験活動(介護等体験、ボランティア、インターンシップ)とその振り返りの機会を設けている。また、実習協力校とは、大学側から実習の目的や評価の観点等を含めて記した依頼書の配布、実習中の授業見学や実習校の教員との意見交換を通して連携を強化している。さらに、愛知県教育実習私大協議会に参加し、懇談会等で実習協力校や教育委員会等との情報交換を行っている。

家政学部と健康科学部では教職員全員の協力体制のもと、教職課程の改善に取り組み、高い成果を上げてきたといえるが、今回の自己点検・評価では次のような課題も明らかになった。今後も、教員養成を取り巻く環境を注視しながら、FD・SD等を継続し、不断の自己点検・評価を通して教職課程の質向上に組織的に取り組んでいきたい。

- 1－1 家庭科教員養成に主に関わる教員と栄養教諭養成に主に関わる教員との連携、専門の異なる教員間の連携の強化
- 1－2 学部外の教員との連携、学内の教職委員会との連携の強化
- 2－1 高大連携等を通して家庭科教員や栄養教諭の志望者を増やすための取り組みの検討
- 2－2 教員採用試験の複線化・早期化等外部環境の変化に対応できるキャリア支援方策の検討
- 3－1 高い専門性を確保しつつ学生への負担に配慮した教育課程の検討
- 3－2 学部と各自治体の教育委員会等との組織的連携体制の確立

#### IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

令和6（2024）年6月7日

第1回教職委員会

- ・教職課程自己点検・評価報告書の作成について手順を確認した。
- ・家政学部と健康科学部は合同で報告書案を作成、児童教育学部は単独で作成作業を進めることとなった。

令和6（2024）年8月22日

第1回生活環境学科教職委員打ち合わせ

第1回健康栄養学科教職委員打ち合わせ

- ・報告書案を検討し、修正等を確認した。

令和6（2024）年9月13日

第2回生活環境学科・健康栄養学科教職委員合同打ち合わせ

- ・報告書案を2学科で合同して内容を検討し、修正等を確認した。

令和6（2024）年10月16日

家政学部・健康科学部報告書案を教職委員会に提出

令和6（2024）年10月25日

第2回教職委員会

- ・学部により報告書案の書式や内容が異なる箇所を確認し、修正方法について検討した。
- ・12月末までに各学部で報告書案を修正し、1月に学部長間で確認を行う。3月に報告書を大学 Web サイトに公表し、一般社団法人全国私立大学教職課程協会へ提出する。